



「三島村と出会えてよかった！」

～しおかぜ留学生は三島村でたくさんのことを学んでいます～

しおかぜ留学生が留学して思ったこと、学んだことなどを地元の新聞「南日本新聞」の投稿欄にたくさん投稿してくれていますので紹介します。(学年は掲載当時です。)

留学を考えている「あなた」「保護者の皆さん」、ぜひ参考にしてください！

【掲載内容】

	題名	掲載日	出身都道府県
1	感謝胸に歩もう	2022年3月21日	熊本県
2	生きる上で必要なこと学んだ	2022年3月7日	滋賀県
3	黒島のビックリ教えてあげよう	2022年2月28日	鹿児島県
4	成長させてくれる島	2022年1月29日	愛知県
5	三島村と出会えてよかった	2022年1月24日	東京都
6	硫黄島が変えてくれた	2021年9月25日	鹿児島県
7	しおかぜ留学1年	2021年7月17日	鹿児島県
8	1年後、理想の自分に	2021年6月24日	大阪府
9	私を変えてくれた島	2021年3月20日	鹿児島県
10	黒島での日々で成長	2020年3月18日	北海道

感謝胸に歩もう

三島硫黄島学園9年生

私は硫黄島で2年間、「しおかぜ留学生」として過ごす中で大きく成長することができました。

当初はあまり話す方ではなく、自分のことも全然できませんでしたが、でも、硫黄島学園の友達や寮監さんのおかげで自分の意思をはっきり言えるようになり、あまりしなかった家事の手伝いも帰省した時にするようになりました。

地域の方の好意で牛の世話なども体験させてもらいました。将来は畜産関係の仕事に就きたいので貴重な経験になったし、いつか硫黄島の畜産に恩返しできたらいいなと考えています。

振り返ると「硫黄島が大好き」ということが一番に思いつきます。島の皆さんは優しく接してくれ、伝統行事に参加することもできました。担任の先生をはじめとする多くの支えで、志望校に合格することもできました。

自分一人ではできなかった成長と、夢へのスタートは硫黄島からのプレゼントだと思います。感謝を胸に歩いていきます。

(2022年3月21日掲載)



生きる上で必要なこと学んだ

三島硫黄島学園 9 年生

僕は去年の4月、滋賀県から三島村の硫黄島に「しおかぜ留学生」としてやって来ました。生活が一変し、不便なことや思うようにいかないことに最初は戸惑いました。

それでも、同じ環境の仲間と励まし合い、学校や地域行事に積極的に参加し、友情や感謝の気持ちなど、生きていく上で必要なことを多く学ぶことができました。

特に頑張ったのが勉強です。これまで苦手だと逃げていましたが、高校受験に向けて逃げていられないと決意。そんな僕の背中を強く押してくれたのが担任でした。

放課後や土日に時間を見つけて勉強を教えてくれ、いろいろな問題や英語の長文が解けるようになりました。そのおかげで志望校への合格を勝ち取ることができました。

恥ずかしくてなかなか言えず、優しさに甘えて反発したこともあります。この場を借りて言わせてください。

先生、感謝しかありません。これからも見ててください。

(2022年3月7日掲載)



黒島のビックリ教えてあげよう

三島片泊学園 5 年生

「海がきれいだな」

黒島の海はまるでハワイの海のように、僕は最初の「ビックリ」に出会った。

昨年11月に始良市から、しおかぜ留学生として黒島に来た。今の片泊学園は小学校と中学校は一体だけれど、前の小学校にはもちろん中学生はいないし、人数も多かった。だから、最初はあまりの違いにビックリした。

お店がないことにもビックリし、最初のころは「大丈夫かな」と思ったが、里親さんと話すうちに不安はなくなり、楽しくなっていた。

それから、住んでいる「しおかぜハウス」のご飯がおいしいこともビックリの一つだった。特においしいのは黒島で釣れた魚のお刺身だ。ますます黒島が好きになった。

学校ではみんな優しく、すぐ友達になれた。少ない人数でも仲良く楽しく過ごしている。勉強も先生に分かるまで質問でき、やる気が湧いてくる。「もっと勉強したいな」と思える自分にもビックリだ。

これから、もっと黒島のことを知りたい。今度は僕が、新しい留学生たちにビックリを教えてあげられるようになると思う。

(2022年2月28日掲載)



成長させてくれる島

三島硫黄島学園 7 年生

去年 11 月、山村留学で愛知県から硫黄島に来ました。僕が硫黄島に来た理由は、自信をなくしてしまって学校に行けなくなったからです。

どうすれば良いのか分かりませんでしたが、硫黄島の山村留学を知り、自信を取り戻して自立したいと強く思い、親元を離れる決心をしました。

最初は不安や寂しさで、体調を崩してしまうことがありました。しおかぜハウスという寮の寮父さん寮母さんのサポートのおかげで、すぐに島での生活に慣れることができました。

同じように山村留学で来ている仲間と励まし合いながら、苦手なことにも積極的に挑戦しています。校内の持久走大会では完走を果たし、英語検定も受検しました。目の前のことから逃げずに取り組めるようになり、少しずつ自信もついてきました。

僕の夢は魚の研究をすることです。硫黄島の海には愛知では見ることのできない魚がたくさんいます。釣りなどをしながら、自分の夢に近づけるように魚の勉強も頑張りたいです。

僕の成長を後押ししてくれる両親の支えや硫黄島は、最大の僕のサポーターです。

(2022 年 1 月 29 日掲載)



三島村と出合えてよかった

三島片泊学園 9 年生

東京から三島村へ「しおかぜ留学生」として来ている。三島村を知ったのは趣味の釣りがきっかけだ。「思う存分釣りができる学校に通いたいな」と母に話していたところ、留学ができることになった。

もうすぐ卒業を迎える。この島に来てからの 2 年間で、私の人生は大きく変わった気がする。本気で釣りに向き合える環境の中で、「将来、魚に関係する仕事に就きたい」と考えるようになったからだ。

希望の職に就くためには勉強が必要不可欠だが、私の学校は人数が少ない分、先生がより親身になって向き合ってくれる。また、片泊地区の皆さんが家族のように見守ってくれるので、私自身も人に優しくなれたように思う。

何よりも親への感謝の心をこれまで以上に持てるようになった。離れているため寂しいときもある。しかし、再開したときに成長した自分を見てもらうことは、本当にうれしいことだ。

これまで留学生活を支えてくれた方々に感謝の気持ちを伝えたい。三島村と出合えて本当によかった。心からありがとう。

(2022 年 1 月 24 日 掲載)



硫黄島が変えてくれた

三島硫黄島学園 9 年生

しおかぜ留学生として硫黄島に来てはや1年が過ぎ、卒業まで半年ほどとなりました。

1年前、硫黄島に来てすぐ参加した行事が「八朔太鼓踊り」でした。薩摩硫黄島のメンドンとして、国の重要無形民族文化財にも指定されている伝統行事です。矢旗や太鼓を背負い、勇壮に舞う踊りは動きが複雑で、最初はまったく踊ることができずとても悔しかったです。



それでも、苦戦する僕に地域の方が優しく丁寧に教えてくれたおかげで次第に踊れるようになり、本番当日は見事に踊りきることができました。この経験を通して、引っ込み思案だった僕自身が、何事にも前向きに取り組もうと考えられるようになったと思います。

そして迎えた2回目の八朔太鼓踊り。これが最後の踊りになるかもしれないと考え、悔いのないよう思い切り舞いました。硫黄島の区長さんから「とてもうまくなった。去年とは表情が違う」と言っていただき、これまでなかなか持つことのできなかつた自信を得ました。硫黄島での生活が自分を変えてくれたように思います。

(2021年9月25日掲載)

しおかぜ留学1年

三島硫黄島学園 5 年生

しおかぜ留学生で硫黄島にやってきて1年がたちました。私が通っている硫黄島学園は、全校生徒23人のとっても小さな学校です。

みんなとても仲良しです。年上の人たちのことは、「兄さん、姉さん」と呼んでいます。一人っ子だった私に、たくさんの兄さん姉さんができました。そして私も年下の子たちから姉さんと呼ばれています。



教室では5・6年生が同じ教室で勉強しています。5人がみんな明るくて面白いので、毎日楽しいです。行事も今までしたことがなかった漁業体験やツバキの実拾い、カヤック体験、ジャンベ活動があります。

私が特に好きなことはジャンベ活動です。毎週水曜日の放課後に、みんなで練習しています。学校が休みの日は港で演奏して、フェリーに乗っている人をお出迎えします。いつもおどり子として演奏に合わせておどっています。おどっていると、みんなが一つになったみたいで楽しい気持ちになります。大好きな島でこれからもがんばりたいです。

(2021年7月17日掲載)

1年後、理想の自分に

三島大里学園 9年生

学校に行けていなかった私は、親元を離れて里親のもとで生活する「離島留学」という取り組みを知りました。環境が変わり、この島でなら学校に行けると思い、期待と希望であふれました。大阪に住んでいた私は、すぐに親に相談しました。

やってきたのは鹿児島島の黒島です。予想以上に自然いっぱいのところでした。周りには山と海が広がっています。きっとここで学べるものがたくさんあるだろうと感じました。

9人での共同生活が始まると、人間関係や学校のこと、時間をどう使うかなど大変なことがたくさんありました。でも学校には行けているので、すごくうれしい気持ちになっています。これからもいろんなことが起こると思いますが、来春に帰る頃は、理想の自分になれていたらいいなと思いました。



(2021年6月24日掲載)

私を変えてくれた竹島

三島竹島学園 9年生

今、私の心の中には感謝の気持ちで満たされている。周りの人に支えてもらって、ここまで成長することができた。心からみんなにありがとうと言葉を伝えたい。

私は、しおかぜ留学生で竹島に来た。去年、4月、9年生として受験生の仲間入りをして、勉強、勉強の1年が始まった。勉強が嫌いな私に、先生方が毎日勉強を教えてくれた。そのおかげもあって、成績も少しずつ伸びていった。

私は何になりたいのか。この1年間、何度も迷った。そして私は看護師になる夢を決めた。新型コロナウイルスが世界中に大きな混乱を巻き起こし、多くの人々を苦しめた。看護師になってみんなを助けたい。また親元を離れて暮らすことで、親へのありがたみを感じることができた。私は看護師になり、恩返しをしたい。

私を変えてくれた竹島。この1年間、最高に楽しかった。たくさんのことを学び、成長することができた。自分一人ではここまで来ることはできなかった。日々の幸せが私の宝物。島立ちをしても竹島で学んだことはこれからの糧になる。ありがとう竹島。



(2021年3月20日掲載)

黒島での日々で成長

片泊中学校 3年生*

黒島に山村留学に来て、2年が過ぎた。今春の中学校卒業と同時に留学生活が終わった。私は2年間の留学で、二つのものを得ることができた。

一つは自立心だ。留学前までは、手伝うことがなかった家事を、留学先では自分でしなければならない。そんな生活を続ける中で、家事の大変さに気づき、親への感謝の気持ちを改めて持つことができた。それと同時に、少しばかりの自立心が私の中で芽生えたような気がした。

もう一つは、黒島ならではの経験だ。黒島では私が以前住んでいた場所では経験できなかった学校行事や地域行事、小規模校ならではの異年齢集団との密接な関わりがあった。黒島での日々は私自身を大きく成長させるきっかけになった。

私は東京の高校へ進学するため、島を離れた。ここ黒島で得た自立心と経験を、これからの人生の糧として夢に向かって努力したい。



(2020年3月18日掲載)

*令和元年度までは片泊中学校。令和2年度から三島片泊学園（義務教育学校）になりました。